

道有林におけるコスジオビハマキの 発生状況と今後の予想（1972年）

鈴木重孝

今年もハマキが生息数調査が、6月中旬に、美深、名寄、留萌、旭川、滝川、岩見沢、当別、函館の8林務署で実施された。その結果（表-1）と今までの資料をもとに今後の発生予想について検討してみたい。

今年、5月下旬から6月上旬にかけて平年より気温の高い日が続いたために、コハスジオビハマキの発育は思いのほか早く、6月10日ごろにはほとんどの幼虫が終令となった。今までだ

表-1 道有林ハマキが生息数調査結果
(1972年6実施)

種名 林務署名 林班名	コスジオビハマキ	トウヒオオハマキ	タテスジハマキ類	モミアトキハマキ類	トドマツアミメハマキ	トドマツメムシガ	トドマツチビハマキ	その他のハマキガ類	ハマキガ類合計
美 深 1 林班	2.05	0.83	0.13		1.03	3.03			7.05
3 9 林班	3.28	0.33	0.05	0.15	5.78	2.20	0.15		11.93
名 寄 1 1 林班	4.28	0.10	0.08	0.10	7.60	5.43	0.18		17.75
5 4 林班	2.95	0.68	0.13	0.05	1.48	0.53	0.08		5.89
留 萌 9 0 林班	9.20	0.55	0.03		0.80	0.28	0.13		10.98
旭 川 7 3 林班	11.53	0.14		0.08	0.75	0.03	0.03		12.56
7 9 林班	7.73	0.15	0.43	0.10	2.48	0.53	0.25	0.03	11.68
滝 川 3 6 林班	9.03		0.03	0.25	1.10	0.68	0.13		11.20
139 林班	11.40	0.23	0.03	0.13	1.08	0.15	0.23		13.23
岩見沢 4 林班	14.40	0.03			0.28	0.15			14.83
7 9 林班	1.68	0.03	0.03	0.08	0.03		0.10		1.93
当 別 2 8 林班	1.75		0.03	0.28	5.03	6.65	0.08		13.80
函 館 8 0 林班	6.08				0.08	0.08			6.23

注 数値は50cmの枝1本あたりの個体数

と、幼虫の発育が早い年にはトドマツの新葉が片はしから食べられてしまうため、赤変した造林地があちこちに見られたものだが、今年はこのような激害林分は1つも報告されていない。幼虫の発育が早かったにもかかわらず徴害であったという今年の傾向は、全般にコスジオビハマキの数が少なかったことを意味している。実際に、旭川や滝川などのかつての激害林分も含めて、コスジオビハマキの数がだんだんと減ってきている林分が多く、今年の調査結果では1枝当り15匹以上の林分は1つもなくなっている。ただ、部分的には数が少しずつふえている林分もあり注意する必要もあるが。そのふえ方はかつて旭川の激害林分でみられたような急激なものではないので、当面は大発生心配はないと思う(表-2)。

さらに今年のトピックスとして、旭川と芦別の今まで数の多かった林分で、コスジオビハマキに初めてウイルス病の発生が観察されたことがあげられる。病気の大流行は、害虫の大発生の崩壊期においてしばしば観察される現象であるが、コスジオビハマキの場合にも、このウイルス病が流行病として蔓延すれば、数の減少傾向にさらに拍車をかけるであろうことは言うまでもない。このことは、コスジオビハマキの発消長を知るうえで非常に重要なことなので、これからも継続して調べるつもりである。

美深林務署 1林班, 39林班とも、コスジオビハマキの数はあまり顕著なふえ方をしていないが。トドマツアミメハマキが39林班で少しふえている。道北地方では、かつてコスジオビハマキの大発生に先行してトドマツアミメハマキが発生したことがあるので、今後どうなるかを継続して調べることが必要と思われる。

名寄林務署 11林班, 54林班とも、コスジオビハマキは増加する傾向にあると思われる。54林班の場合、1枝当り2.95匹と昨年にくらべると急に数が減っているが、これはおそらく一時的なものである。

留萌林務署 コスジオビハマキの数が徐々に増加しているので、今後とも注意が必要である。

旭川林務署 73林班, 79林班とも、コスジオビハマキの数は徐々に減っ

表 2 コスジオビハマキの個体数の推移

林務署 林班名		年次			
		1969	1970	1971	1972
美 深	1林班	1.05	0.75	3.33	2.05
	39林班	1.20	5.18	4.42	3.28
名 寄	11林班	1.36	1.80	3.84	4.28
	4林班	4.83	5.10	9.38	2.95
留 萌	90林班	3.34	1.88	6.48	9.20
旭 川	73林班	4.20	15.38	13.38	11.53
	79林班	28.30	22.14	12.15	7.73
滝 川	36林班	13.67	9.58	30.50	9.03
	139林班	6.00	7.33	8.80	11.40
岩見沢	4林班	3.93	2575	14.55	14.40
	79林班	13.15	6.15	10.75	1.68
当 別	28林班	2.75	2.75	1.31	1.75
函 館	80林班	1.00	3.53	9.58	6.08

注 数値は50cm1本当りの個体数

てきている。とくに 79 林班では、1969 年をピークとして急激に数が減っており、今年はウイルス病の発生もみられたことを考えると、来年はさらに数が減ることが予想される。

滝川林務署 36 林班はコスジオビハマキの固定調査地として、過去数年間、継続して観察している。今年の場合は、去年の 30.50 匹という数にくらべて 9.03 匹と急激に減り、しかも今まで観察されなかったウイルス病の発生がみられる。また成虫・卵ともほとんど見当らなかったことを考えると、来年はさらに数が減るものと思われる。それとは逆に 139 林班は、徐々に数が増加しているので注意する必要がある。

岩見沢林務署 4 林班では昨年と同じ数であるが、79 林班は急激に減って平常状態の数になっている。4 林班は今後とも注意する必要があるが、79 林班では、今後、数が急激にふえることは考えられない。

当別林務署 今後とも大発生の心配はない。

函館林務署 コスジオビハマキの数は増加の傾向にあり注意を要するが、地域的には特殊な所なので現在の資料では今後の発生状況の予想はむずかしい。

(昆虫野兎鼠科)

